

医療と福祉の空間づくりを考える

ケアローク

Carelogue

Case 1

患者さんに優しい手術室

国立大学法人 鳥取大学医学部附属病院 手術部

Case 2

女性の笑顔を守る、最前線の環境づくり

医療法人DIC 宇都宮セントラルクリニック プレストセンター

Vol. 1
SPRING 2017



Case 2

女性の笑顔を守る、 最前線の環境づくり

医療法人DIC 宇都宮セントラルクリニック プレストセンター

日本初の完全女性専用の検診センターとして、2013年12月にオープンした宇都宮セントラルクリニックプレストセンター。建物全体が専用施設として計画され、受付・問診・検査等すべての対応を女性のスタッフが行う。

日本人の乳がん罹患率は現在12人に1人。年々増加しているにも関わらず、検診受診率34.2%と非常に低いという。国は、がん対策推進基本計画において、がんの早期発見・早期治療を目指し、平成28年度までに検診率50%を目標として掲げているが、達成にはほど遠い状況だ。どうしたら能動的な受診を促し、少しでも早く適切な治療へ導くことが出来るか——地域医療から日本の女性の笑顔を守るべく最先端の医療環境がつけられた。



健診待合
白を基調とした明るい内装はアクセントカラーにするれ色を用いて、上品さと爽やかさを演出。約170㎡と広々としたホテルのラウンジのような空間が広がる。

女性による女性のためのプレストセンター

プレストセンターの設立背景には、日本における乳がん検診受診率が欧米諸国に比べ極端に低い現状と検診環境の遅れがあった。

「プレストセンター設立のきっかけは、1人でも多くの日本人女性に整った検診環境下で検診を受けて欲しいという思いからです。

実は、日本における乳がん検診受診率は、欧米が80%を超えているのに対してわずか約25%と極端に少ない状況でした。なぜ受診しないのか。1つは当時、日本には女性専用の検診センターがなく、男女一緒に検診環境のために女性たちに敬遠されているケースがあったということが考えられます。さらに、日本人女性の約8割～9割はデンスプレスト(注1)という乳がんが見つかりにくいリスク体質であることも知られておらず、定期的に検診を受ける動機が生まれにくいでしょう。

自分自身のためにぜひ検診を受けて欲しい。そのために、スタッフも女性に対応する完全に女性専用の空間と、最先端の診療を受けられる環境を用意することで、安心して来ていただけるクリニックをつくらうと考えました。

精度の高い乳がんの検査を行うには、3Dトモシンセシスや3D超音波装置、MRI、PEMが必要です。しかし、これら全てを、どのような施設でも完備するのは難しいと思います。ですから、幾つかの医療機関で共同利用できるような拠点を我々が担えたらと考えました。最先端の医療環境を整えたプレストセンターとして、そのメリットについて患者さんに分かりやすく伝え、患者さんに寄り添って適切な医療を提供することが私たちの役割だと考えています」(佐藤理事)。

*注1：同プレストセンターで導入されている乳腺密度3次元自動測定装置「Volpara(ボルバラ)」によるデータより



佐藤俊彦 理事
放射線科専門医

●デンスプレスト(高密度乳腺)とは

- ・ 乳腺密度が高いと、診断が困難なことが多い。
- ・ 高密度乳腺でない場合と比較して、乳がんリスクが4～6倍と言われる。

「アメリカのいくつかの州では、マンモグラフィー検査で受診者がデンスプレストであると判明した場合に、24時間以内に本人に告知しなければならないという州法が出てきています。そして、医師はデンスプレストの人には超音波検査を受けることを勧めること、それを怠った場合は、医師の誤診とされる、などが定められています。それほど『乳がん検診はデンスプレストとの戦い』なのです。しかし日本では、デンスプレストというハイリスク体質を前提とした検査・診断体制が整っている施設が少なく、デンスプレストがもつリスクについて、医師から説明されることさえほとんどありません」(佐藤理事)。

空間の工夫で受診への心理的なハードルを下げる

乳がん検診の受診率が低い理由には、①時間がない ②検査が痛そう ③男女が同じ空間で検診を受けなければならないという検診のイメージがあるという。このうち、宇都宮セントラルクリニックでは②と③に着目。マンモグラフィー検査に代表される痛みを想像する検査には、痛みが少ない検査機器を導入。そして、完全女性専用の施設とすることで、受診への心理的なハードルを下げようと試みられている。さらに検診で女性が不快に感じる理由③について、これに起因する『動線計画』が徹底的に検討された。

「動線計画で最も大変だったのは、男女の動線と患者・スタッフ動線の分離に伴う、効率的なレイアウトの実現でした。『男女動線の分離』ではプレストセンターの建物自体を女性専用とすることで、元のクリニックと男女の入り口を分けて完全独立

型としました。しかし、PET/CTやMRI等の機器(*注2)は各施設に設置するには設備投資がかかり、設置環境上の制約も大きいため、男女で共同利用せざるを得ませんでした。そこで、クリニックとプレストセンターそれぞれから検査室へのアクセス経路を工夫することで、男性と女性が出会うことがないように配慮しました。更に、女性専用のプレストセンターにおいて、受診目的が異なる乳腺外来を健診の受付と分けていることも特徴です。健診は自由診療、つまりほとんどの方は健康で来院しているのに対し、乳腺外来は何かしら心配や自覚症状のある方が来られます。両者の心理的状态は全く異なることをきちんと考慮しなければなりません。

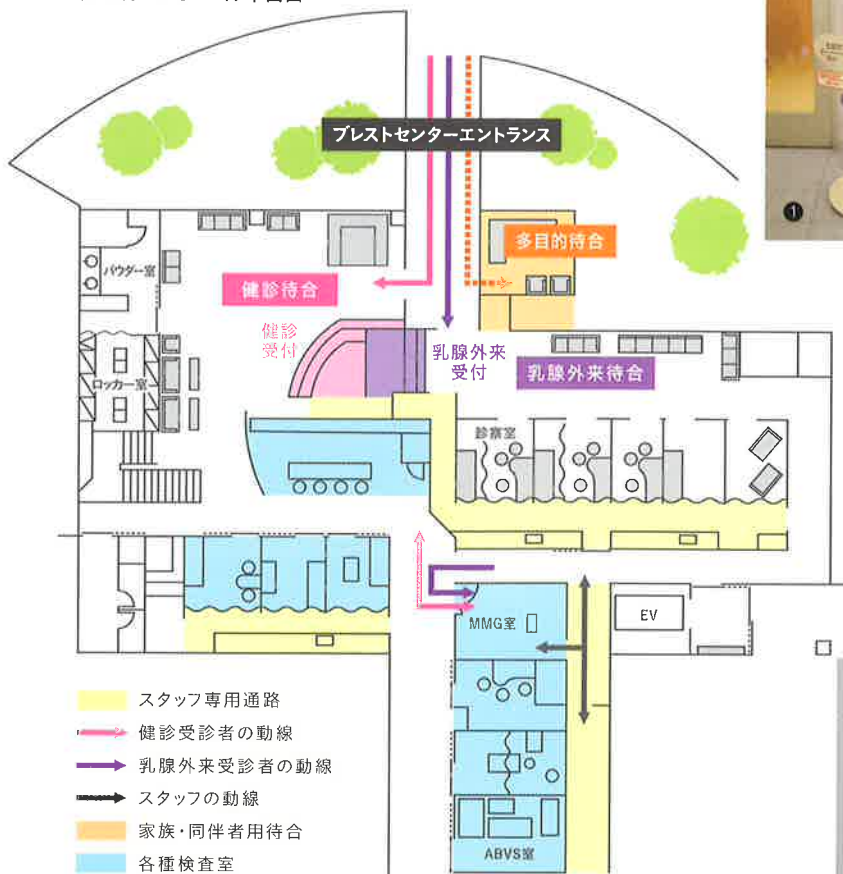
『患者・スタッフ動線の分離』は、スタッフが、迷うことなく迅速に対応できるように、スタッフ通路のスペースを十分に確保し、

各部屋間をスムーズに動ける計画としました。また、患者さんの受診時のスタンダードな順路に沿うよう、諸室を配置しました。このように、分けるべき動線はしっかり分けたことで、スタッフは患者さんが多く来院する時間帯でも、スムーズに動けるようになり、効率が向上しました。スタッフどうしの会話が患者さんに筒抜けにならない点でもメリットがあります」とプレストセンターの施設計画に初期から関わった齋藤順一技師長は語る。

*注2:現在はプレストセンター専用のMRIが導入されている。

- ① エントランスに置かれているサイン
乳腺外来入り口と健診入り口が分かれていることを案内している。
- ② 乳腺外来受付
待合から少し距離をとって配置されている。
- ③ 診察室
カーテンの奥がスタッフ専用通路。

プレストセンター 1F平面図



患者とスタッフの動線は明確に別れており、部屋へはそれぞれ専用の入り口からアクセスする。



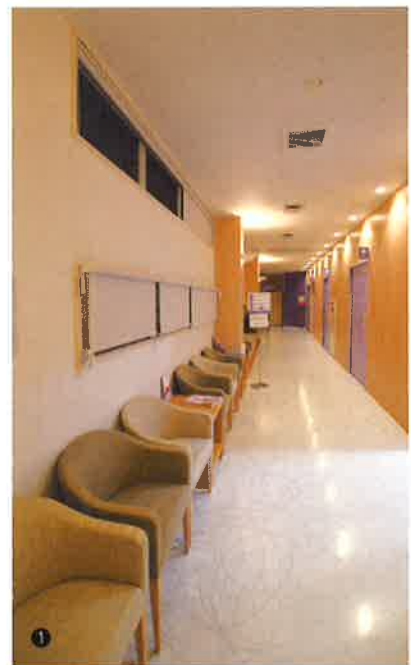


健診待合は中庭に面して大窓があり、夜はライトアップされた草木が揺れる。

待合や検査室をはじめとした諸空間にも工夫が凝らされている。中庭に面して配置されている全面ガラスの健診待合、開放感のある検査室前の廊下には外からの視線を遮りつつ採光がとれるよう効果的に開口が設けられているのが印象的だ。「窓の位置や大きさは、計画段階の図面や模型でも検討しましたが、建設現場を実際に見てみて、その場で要望を反映してもらったこともあります」(齋藤技師長)。

内装仕上げは、健診エリアでは白とすみれ色を基調に明るく爽やかな雰囲気、検診エリアは木目調の落ち着いた雰囲気となっている。さらに検査室も一部屋ごとに気持ち安らぐ色や異なる模様の壁紙で設えられている。入る部屋によって気分が変わる

と患者さんからの評判も良いという。「プレセントセンターの計画では、医師や検査技師、医療事務、看護師など各部署の代表者からなるプロジェクトチームをつくりました。医療機関は専門の資格を持った人々が各分担を果たすことで成り立っていますが、相互に連携しなければ、最適な全体フローを整えることはできません。従って、動線計画も内装計画も実際に現場で動くメンバーに、職種横断のプロジェクトチームとして考えてもらったのです。我々は医療という専門職であるとともに究極のサービス業です。クリニックに来られる方が満足していただける医療技術と空間、スタッフの接遇、それらが三位一体となったサービスを提供しなければならないと考えています」(佐藤理事)。



- ① 検査室前の待合
一人ずつの椅子、暖色系のダウンライトと間接照明が設えてあり、落ち着いて待つことができるよう配慮されている。
- ② マンモグラフィ検査室
壁の一面にアクセントとなる壁紙があしらわれている。
- ③ 健診受診者用のロッカー
アクセントカラーのすみれ色が内装に効果的に取り入れられており、暗くなりがちな空間も明るい雰囲気。



乳腺外来の待合
ブラウンを基調とした空間は健診エリアと比べて落ち着いた雰囲気となっている。

さらに多くの女性の安心のために

「2013年にオープン後も、MRIの需要の増加に伴いプレストセンター専用のMRIを増設するなど、施設・医療機器ともに充実を図ってきました。あとは我々スタッフの接遇が大切だと思っています。先日の出来事なのですが、センター内で患者さんが迷子になってしまいました。受付で部屋の配置図をお渡しし説明するのですが、配置図自体が見慣れないために迷われてしまったようです。現在は手づくりのサインを用意して対応していますが、複合的な検査により精度の高い検査結果を提供するため部屋移動が多くなってしまいます。患者さんの立場に立った適切な誘導の方法を考えなければならないと実感しました。ここを訪れる方は2、3歳の子どもから90歳のお年寄りまで、また閉所恐怖症でMRIに入れない方など様々な方がいらっしゃいます。一人ひとりの状況に寄り添った医療が提



3T MRI室
プレストセンター用に増設された。木目調のフローリングとダウンライトにより怖さを感じさせない空間に。

参考文献

1. 厚生労働省「がん対策推進基本計画」

供できるよう心掛けていきたいですね」(石原千裕 技師)。

「栃木県内でも乳がん検診受診率は、約30%です。著名人の乳がん罹患報道があると一時的に受診率は上がりますが、すぐまた下がってしまうのが現状です。車に車検があるように、人間も定期的に検査を受けることが大切であることをもっと伝え続け、受診率を50%くらいまで上げたいと思っています。そのために、我々としてどのような環境を整えるべきなのか、今後も追求していきたいと思います」(齋藤技師長)。

「オープンして3年経ちましたが、日本全体でも、栃木県内でも、まだまだ乳がんの受診率は低い状況です。地域に根差した身近な医療機関である我々が、もっと啓発活動をしていかねばなりません。乳がんは早期発見すれば9割以上が治るとされています。早期に治療をすれば身体的負担も少なく、社会復帰も可能です。当院の精度の高い医療環境と安心して受診できる施設空間で、一人でも多くの女性の笑顔を守るお手伝いをしたいと考えています」(佐藤理事)。



齋藤順一
診療放射線技師長



石原千裕
技師



プレストセンター 概要

女性専用健診、乳腺外来専門の施設。乳腺専門医の診療のもと、画像診断機器も乳腺分野に特化した最先端装置を整え、精度の高い医療を提供している。



1. 安心と優しさ
2. 信頼と信用
3. かかりつけ医

宇都宮セントラルクリニック

所在地	栃木県宇都宮市屋板町561-3
理事	佐藤俊彦
一般外来	内科 神経内科 消化器科 循環器内科 呼吸器アレルギー内科 呼吸器外科 等 12科目
乳腺外来	プレストセンターにて診療
一般健診	健康診断 各種人間ドック
がん治療	免疫細胞治療 DCハイブリッド オンコサーミア